



# みやぎの明治村 とよま資料館だより

登米市歴史資料館・高倉勝子美術館  
発行/㈱とよま振興公社  
〒987-0702  
宮城県登米市登米町寺池桜小路2  
Tel: 0220-52-5566  
Fax: 0220-52-2630  
http://toyoma.co.jp  
発行日: 令和2年10月12日



## 《 教育資料館編 》 第2号



### // 序章「幾度の震災に耐えた木造校舎」 //

明治21年に完成した旧登米高等尋常小学校(現教育資料館)は、約130年間の間に、幾多の震災を乗り越え、現在も登米町の中心的シンボルとして、多くの観光客の方々にご来館いただいています。

教育資料館は、宮城県技師の山添喜三郎の設計・施工管理による建物で、建築資材の納品審査が厳格であったことから、いろいろなエピソードが残っています。建築当時の窓ガラスも何枚か残っていますので、お出での際は探してみてください。



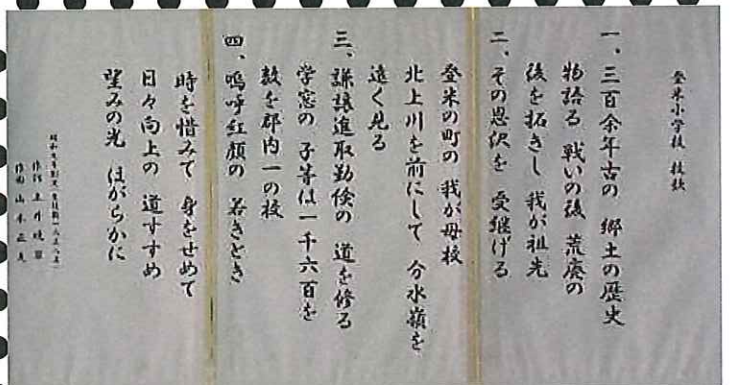
仙台市から来館された佐藤様ご家族

### // 企画展「学校日誌から見るスペイン風邪」 //

現在、教育資料館では大正7年から10年にかけて流行したスペイン風邪について企画展を開催しています。今から、約100年前に世界的に大流行し、多くの感染者数や死亡者数が報告されています。

見学された佐藤様から、当時の様子がよくわかり、大変良かったと感想をお話いただきました。

この企画展は、令和3年3月31日まで開催します。



### // 登米小学校の校歌制定 //

登米小学校は明治6年に開校し、15年後の明治21年に登米高等尋常小学校が完成しました。

登米小学校の校歌は開校60周年記念事業の一つとして昭和9年9月に制定されました。校歌の歌詞は土井晩翠先生の作詞です。

晩翠先生が作詞した由来につきましては、登米町在住の方が晩翠先生と懇意にしていたようで、その方を通じて作詞を依頼したようです。縁は異なるものと改めて思いました。経緯を記した資料を展示しています。

裏面もご覧ください

## PTAの歌

皆さん、「PTAの歌」を聴いたことがありますか。この歌の作詞者は、登米市登米町に居住していた、春日紅路氏(本名:静輝)です。作曲者は、今、NHK朝の連続テレビドラマ「エール」のモデルになっている、古閑裕而氏(本名:勇治)です。

紅路氏は昭和26年に毎日新聞社とNHKが共催で募集した「PTAの歌」に応募し、文部大臣賞を受賞しました。翌27年には、藤山一郎氏と松田シ氏により、レコード化されています。

## 明るい家庭を "PTAの歌" 作詞にあたって

春日紅路氏が「PTAの歌」を作詞するにあたって考えていたことを登米小学校PTA会報第2号(昭和26年12月31日発行)で、次のように書いています。概略を紹介します。

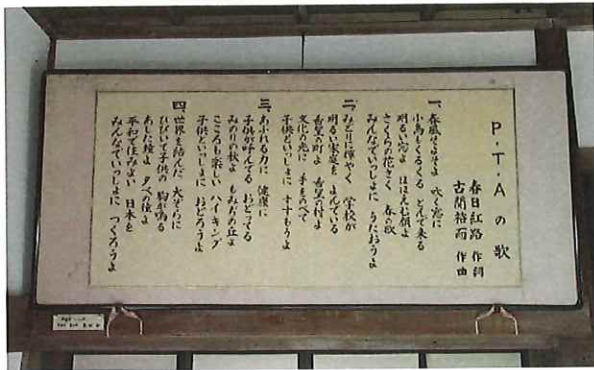
「教育は学校だけがするもの、とか或いは受持ちの先生が全責任を持つべきものであるとかと、いったような誤ったあなた任せの古い考えは捨てよう。

家庭が暗かったら、決して立派に子供は成長しないのだ。人間性豊かな教師と理解ある親達これらが堅く美しく直結するときをはじめて希望も花咲き、新しい日本の教育も確立するのではないだろうか。

人間教育というものに深い関心と、不思議なほどの強い郷愁を感じているぼくは、そうしたことを考え、夢みながらこの歌をつくった。」

この思いは、今から約70年前に書かれたものですが、今、読み返してみても、考えさせられる一文のように思います。

教育資料館では「PTAの歌」や「PTAの歌作詞にあたって」を展示しています。ご来館をお待ちしています。



写真：蒼樹会様より寄贈の歌詞の額(平成6年1月12日)

一口メモ 「宮城県技師 山添喜三郎氏」  
宮城県技師 山添氏は新潟県西蒲原郡角海浜村(現新潟市西蒲区)に生まれましたと言われています。明治5年、オーストリアのウィーンで開催された万国博覧会に大工棟梁として、政府から出張を命じられ、現地に日本家屋を建築し、明治9年に米国のフィラデルフィアで米国独立百周年記念万国博覧会が開催された時にも渡米し、この時期に欧米の建築について見聞を広めたと言っています。明治16年、仙台の三居沢に紡績会社の工事監督として招かれ、その手腕が評価され、明治18年頃に宮城県職員として迎えられたようです。

## チョット一服

【統計数値はあくまで、参考数値です。】

教育資料館(旧登米高等尋常小学校)は明治21年に建てられましたが、現在、同様なるものを建築するとした場合、どの位の建築費となるかという質問を時々聞かれます。皆さんはどの位の建築費になると思いますか。

資料によっても、当時の総建築費に相違がありますが、「文化財校舎のあらまし」によれば、総事業費は6,287円、うち校舎建築費は3,500円であったと言われています。

明治18年の大卒初任給が10円、令和元年では210千円なので21,000倍となります。3,500円にこの倍率を掛けると7,350万円となりますが、この金額では建築はできないと思います。大工手間賃では約44,700倍で、1億5,645万円となりますが、この金額でも建築は難しいと思います。

ということで、この質問に対する回答は非常に難しいものです。



旧登米高等尋常小学校建築支出計算表(明治20年)

## 次号の告知

次号は《警察資料館編》で、来年1月に発行予定です。

警察資料館は県の指定有形文化財に認定されています。

全国的にも珍しい警察関係の資料を展示しています。パトカーや白バイの体験乗車ができる他、当時の留置場を再現していますので、是非お出で下さい。



“みやぎの明治村”SNS 随時更新中です！  
チェックしてみてください。

## イベント情報

R2.8.8(土) ~ R3.3.31(火)

教育資料館(旧登米高等尋常小学校)  
「学校日誌から見るスペイン風邪」

## 編集後記

今回、改めて旧登米高等尋常小学校で展示している資料や保管資料を見てみると、今更ながらに、登米小学校の歴史を痛感させられました。「学校日誌」を廃棄せずに、今に現存しているからこそ、歴史資料として展示できるものです。今後も、大切に保管し、後世に残していかなければならないと思いました。

教育資料館の次回の常設展で「特異な登米市の地層(仮称)」を取り上げたいと考えています。小学高学年の児童の皆さんにも理解できるように展示方法を検討します。鎌田